

貯めた雨水を緑化に…無電源の「安藤式自動灌水装置」



雨びつ + 木製ロングプランター + 自動灌水



A：底から給水タイプ

B：上から給水タイプ→

どちらもソフトカバー付き



Aタイプ：水耕栽培の例



Bタイプ：プランター栽培の例

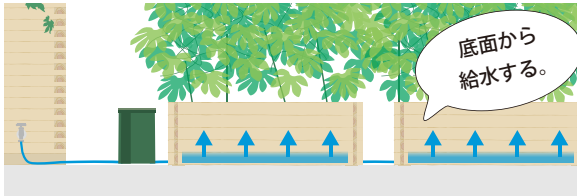
一般的な自動灌水装置は、水道の圧力で作動するため、雨水タンクの低水圧では働きません。一方、「安藤式自動灌水装置」は、水位差 0~1500mm の低水圧で作動する自動灌水装置で、電力を使わずに、プランター底部の水位を維持し補給します。

夏場に多量の給水が必要な緑のカーテンなど、水やりの手間が大いに省けます。

この「安藤式自動灌水装置」には、「A：底から給水タイプ」と「B：上から給水タイプ」の2タイプがあり、どちらも故障がほとんどなく、目的に合わせて的確に働きます。

安藤式自動灌水装置

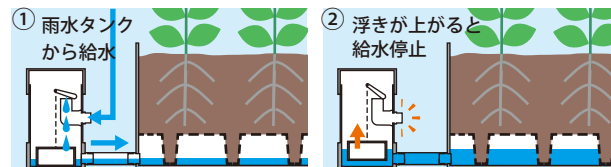
A：底から給水タイプ



底面から給水する。

底面に水を溜めることのできるプランターを使います。〈雨水タンク→灌水装置→プランターの底〉と配管します。プランターの底にたまる水の深さ 30mm を維持、給水し、底の水は土の毛細管現象で植物に届けられます。汎用性が広く、プランター栽培のほか、水耕栽培、ビオトープの水位維持などにも活躍します。

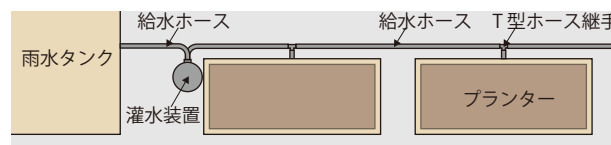
「A：底から給水タイプ」の給水のしくみ



プランターについて

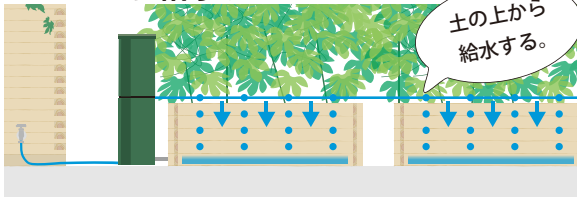
- ・市販の樹脂製プランターで、底に水を溜めて毛細管現象で給水するタイプなら、穴をあけて継手を取り付けることで簡単に利用できます。
- ・木製なら、底に敷く遮水シートに穴をあけて継手を取り付けホースをつなぎます。水と土の間に空気層を設けるために、遮水シートの上に鉢底石などをネットに入れて敷き、その上に土を入れます。

「A：底から給水タイプ」のセッティング例 (上から見た図)



安藤式自動灌水装置

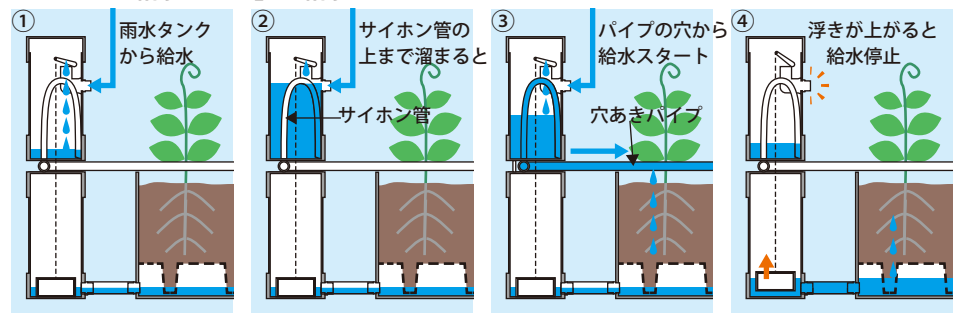
B：上から給水タイプ



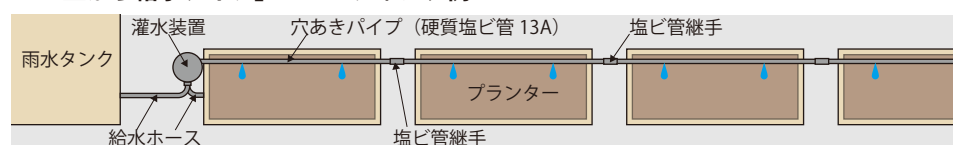
土の上から給水する。

底面に水を溜めることのできるプランターを使います。灌水装置と1つ目のプランター=パイロットプランターの底を配管します。パイロットプランターの底の水が深さ 30mm を下回ると、〈雨水タンク→灌水装置→一連のプランター上部に配管した穴あきパイプ→個々のプランター〉へと給水が始まります。土の上から給水するとともに、底に溜まった水も、土の毛細管現象で植物に届けられます。

「B：上から給水タイプ」の給水のしくみ

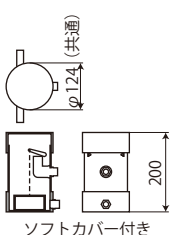


「B：上から給水タイプ」のセッティング例 (上から見た図)



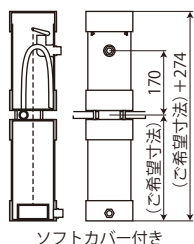
穴あきパイプの作り方

- ・硬質塩ビ管 (13A) に、穴径φ3mm の給水穴を、プランター1台につき2カ所設けます。灌水装置1台で市販のプランターを6台まで接続することができます。穴数は12穴です。(「穴径φ3mm・プランター1台に穴2カ所」は標準ですが、変えてみてもよいでしょう。)
- ・穴あきパイプはプランター1台ごとに切断し、接着をせずに、塩ビ管継手でつなぎます。そうしておく、給水穴の角度を変えることができ、水の出を調節することができます。



A：底から給水タイプ

¥28,000 (税別)



B：上から給水タイプ

¥68,000 (税別)